東國太平記 二

内閣文庫

内閣文庫	
番號	和 8789
冊數	18 (3)
函號	168 352

国立公文書館
National Archives of Japan

帝國圖書館藏

東國太平記卷之二目錄

上杉取立神刺原新城事　第二葉

加州前田利長逆心之沙汰
並利長人質進上之事　第四葉

上杉使者藤田能登守上洛事　第五葉

上杉謀反之沙汰事　同葉

藤田能登守
栗田刑部　會津立除事　第九葉

藤田能登守上洛之事　十一葉
伊奈圖書助會津江被下事　十二葉
河村長門守

東國太平記卷之二目錄　終

東國太平記卷之二

○上杉取立神刺原之新城事

景勝會津へ歸城アリ。直江山城守モ歸着シテ申ケルハ。只今ノ御居城山ノ内ノ城ハ。葦名盛重ノ代々ヨリ。畢濕ノ地ニテ。水土アシク。上下病人多シ。山ノ内ヨリ八里隔タル神刺原ハ。佐野川ニソヒ地高ク勢ヒ秀城郭ニ第一ノ所ナリ是ヘ山ノ内ノ城ヲ引候ハントト申ケレバ。景勝聞給ヒ昔ト違只今ハ城ヲ取立ル事。公儀ヘ達セズシテハ不叶ト申サレケルヲ。直江ハ聞モ敢ズ。我等大坂ヲ罷出候時。奉行衆ヲ以

テ秀頼公ヘモ淀殿ヘモ達シ候テ事濟候間御氣遣
有間敷ト申ケレバ景勝モ其意ニゾ任セラレケル。
角テ直江ハ數万ノ人夫ヲ遣シ神刺原ニ新城ヲ拵
ケル。二月十日ニ嶋倉孫左衛門総奉行トシテ城地
ノ普譜始有會津四郡仙道七郡長井刈田佐渡庄内
ヨリ人夫八万人ヲ集桂嵩ノ峯々ヨリ大石ヲ引出
シ。夜ヲ日ニ續テ急ギケル。其外天下ニ名アル窪人
共ヲ召抱ヘ。會津七口ノ道橋ヲ作セ。武具馬具ノ支
度懈間ナシ。是ヲ聞テ畿内上方ノ窪人追々ニ會津
ヘ下ル。中ニモ前田慶次郎利大。水野藤兵衛重俊ハ

京都ヨリ下リ。山上道及上泉主水ハ上野ノ國ヨリ
會津ニ越キ。其外三百餘會津ヘゾ下リケル山上道
及ハ首供養三度セシ者ナリ。上泉主水ハ淺黄威胴
ヲサシ。利根川ノ先陣ヲ渡セシ兵ナリ。此下本書ニハ字頭一段サゲテアリ 前田慶次郎ハ加賀大納言利家ノ從弟ナリ。
隱ナキ兵ナレドモ。不斷ノ行跡ヲドケ者ユヘ加州
ヲ立除窪人タリ。此者ノ事語ニ言ナク。記スニ筆モ
及ザル事ドモナリ。景勝ヘ奉公ニ出ル時ハ。法體ニ
テ穀藏院ヒヨツト齋ト名付。衣物ニ幅袖ニシテ長
袖ナリト称ス白四半ニ大ブヘンモノト書タリ其

上皆朱ノ鑓ヲ持セタル故。人々是ヲ咎メ。直江山城守組ニナリシニ。其比ハ珊瑚ノ鑓。皆朱ノ鑓ハ覺ノ士ニナラデハ持セザリシユヘ。皆上杉右參ノ兵共是ヲ咎メシナリ。去年慶次ニ朱柄ノ鑓無用トモ云ガタシトテ。右ノ咎カヘリシ兵。韮塚理右衛門。水野藤兵衛。藤田森右衛門。宇佐美弥五左衛門四人ニモ。朱柄ノ鑓赦免セシガ最上長谷堂合戰ニ此四人ト慶次ト一同ニ鑓ヲ合セ。高名セシ故。世ノ人称美不斜。又白四半ニ大ブヘンモノト書タルヲ。上杉家中平井出雲守。金子次郎右衛門トガメテ。謙信以來武士ノ花ノ本ト天下ニテ唱ル當家中ニテ。ヲシ出タル大武邊者トハ。中々指物ニサヽセ、ジ。踏打テ捨ントノ旬リケル。慶次ハ目モアヤニ打笑。サスガ田舍衆ナリ。文字ノ假名ノ清濁ヲワキマヘラレズ。我永牢人ニテ貧キユヘニ。大フベンモノト申事ナリ。ベンヲバ清テヨミ。フヲ濁テ讀ルユヘニ。皆々腹ヲ立ラレ候。我ガ指物ハ大フベンモノニテ候ト申テ。大ニ笑ケレバ。上杉家中ノ士共興ヲサマシケルトカヤ

○加州前田利長逆心沙汰

利長人質進上之事

三成ヨリ密ニ謀ト廻シ。加賀肥前守利長謀反ノ由
京大坂ニ披露アリシカバ。御所ハ丹羽五郎左衛門
尉長重（時号ニ小松宰相）ヲ召肥州逆心有之貴殿ハ小松在城
金澤口一ノ手先ナレバ。先手致サルベシトテ。手
カラ吉光ノ脇指ヲ賜リ。又大聖寺城主山口玄番允
弘正ヲモ。長重ニ相添ラレケル。元ヨリ曾テナキ事
ナレバ。利勝大ニ驚キ。横山大膳。江森平左衛門。寺西
宗養齋藤刑部ヲ指上セ。血判誓紙ニテ全ク逆心ナ
キ由申分有之御母儀芳春院ヲ江戸ヘ人質ニ下シ。
新將軍ノ御息女ヲ利長ノ嫡子犬千代丸ヘ遣サレ候

ハント御約束ニテ。加州征伐ハ止ニケリ（犬千代後肥前守利常ニ）
○上杉使者藤田能登守上洛之事
慶長五年正月朔日御所ハ。大坂ノ城西ノ丸ニ御座
テ。諸大名ノ禮ヲ受給フ。其中在國ノ大名上杉景勝。
毛利輝元。前田利勝ハ使者ヲ指上セ。年頭ノ祝儀ヲ
申上ラレケリ。景勝使者藤田能登守（會津川城主）事。前々
ヨリ御所御存知アル故御前近ク召。其方會津ヘ罷
歸候ハヽ。天下ノ仕置ノ事相談スベキ事モ繁多ナ
リ。又豊國ノ御社御普請造營奇麗ニ出來申候間參
詣ノ爲景勝早々上洛シ給ベキ由。可申達トテ。能登

守ニ様々御懇意其上青江直次ノ御腰物銀百枚ト袖ニ十被下。藤田ハ會津ヘ下ケル。後ニ沙汰セレハ。能登守是ヨリ御所ヘ心ヲ寄奉リ。一度奉公仕度トノ密々ノ御約束申上候トカヤ

○上杉謀反之沙汰事

其春ヨリ風聞アリシレハ。上杉中納言景勝。新城神刺原ヲ取立。關東北國畿内遠境ノ諸軍人數千召抱候中ニモ山上道及。上泉主水前田慶次郎等ノ名士數百騎有之逆心疑ナキ旨。京大坂ニ披露シ。其沙汰數シカリシ處ニ。二月朔日ニ越後ノ國ノ守護堀久太郎秀治家老堀監物直政一ツ書ヲ以テ。大坂ヘ申上ケルハ景勝天下ノ諸牢人ヲ召抱神刺原ニ新城ヲ取立。口口ノ道橋ヲ作馬物具弓鉄炮ノ用意事モ數シキ次第ナリ殊ニ越後ハ上杉ノ舊領ナレバ。國中ノ民百姓景勝ヲ慕コト。父母ヲ思フガコトシ。是ニヨリ一揆ヲ起サンカト。氣遣枕ヲ傾ケ眠コトヲ得ズ公儀若緩セニ御沙汰候テ事延候ハヾ。天下ノ大事ニ成ベキ旨。注進申上ケル。又御所ノ御家老柳原式部太輔康政上州館林在城ナレバ。堀監物方ヨリ度々會津表ノ注進アツテ。康政ニ。リモ頻ニ申上ラレシ

カバ。御所モ。増田長束。德善院ヘ御相談有之。上方ヨリ。會津ヘ諸牢人ノ下ル事ヲ禁制シ給フ。其砌本多佐渡守正信ハ堀監物使者ヲ呼テ詳ニ會津表ノ樣子尋問シニ。彼使者申ケルハ。監物事ハ直江山城ト宿意有之候。其子細ハ去々年景勝會津ヘ移ラレシ。其跡ヘ。堀久太郎罷越候特分。已ニ々、ニナリ候ユヘ。越前ノ舊領年貢ハ。半分ハ納取候ヘ共。越後ヘ罷越候ニ付其納米ヲ藏ニ納。公儀御代官ヘ相渡シ。越後ヘ罷越候處ニ。直江山城守指圖ニテ。越後一國ノ年貢半分過納取テ。會津ヘ罷越候。是ニヨリ監物方ヨリ斷ヲ立。越前ノ納米ハ。皆國ニ還納セシ間。越後ノ當年貢其元ヘ納ラレ候半分ヲ此方ヘ返納然ルベシト申遣シケレバ。直江曾テ承引ナシ。是ヨリ監物ト直江ト中惡ク罷成。常々忍ノ者ヲ會津ニ入置上杉家中ノ樣子ヲ承リ候ニ。謙信以來或ハ罪科ニヨリ。又ハ故有之テ牢人シ。越後ニ蟄居セシ上杉家ノ諸牢人。齋藤八郎（赤田城主齋藤下野守朝信ガ弟）同三郎左衛門カ。田左京。朝日采女。宇佐美民部（柏崎城主宇佐美駿河守定行子）其子藤三郎（後兵左衛門ト云）安田平八。加地右馬助。万貫寺源藏矢尾板主膳。竹俣豆岐守。長尾喜左衛門。梯崎三河守

株崎和泉守景家ガ等二十餘人ノ方ヘモ。直江山城
守或ハ弟源左衛門 守内意ヲ以テ。密々ニ合カイタシ。一揆ヲ企テ候由
申候ト返答シケレバ。本多佐渡守此段ヲ御所ヘ申
上ケリ

堀久太郎越後ヘ入部セシメ。家老堀監物方ヨリ。
國中ヘ觸渡シ當年貢ヲ納取ントス。百姓共云時
分已ニ冬ニテ候ユヘ。年貢半分ハ上杉殿ヘ納候
間。其分ハ納候事罷成ズトイフ。監物方ヨリ。直江
山城守方ヘ申遣候ハ。納取ラレ候。當年貢半分此
方ヘ返給ベシトト有シニ。直江返答ニ。久太郎殿越
前ヲ御出候砌。越前ノ當米半分ハ納取ルベク候。
會津領モ前ノ地頭蒲生秀行當年貢半分納取テ
宇都宮ヘ移ラレ候ヘバ。景勝モ其殘リ半分ヲ納
候。越後ニテ納候半分ヲ返納致スベキ子細ナシ
ト肯ハズ。重テ監物使者ヲ以テ。越前ノ當年貢ヲ
殘ズ藏ニ納置。公儀ヘ差上候聞。越後半分ノ年貢
ハ戻シ候ヘト乞ケレバ。直江笑テ曰。越前ノ年貢ヲ
半分ヲ納取サルハ。監物ガ過ナリ。左樣ノウツケ
タル同類ニハ。此方ハ罷成ズト嘲弄セシカハ。監物
根深遺恨ニ思ヒシトナリ

御所ハ監物カ注進ノ一ツ書ヲ。増田右衛門尉長盛長
東大藏太輔正家ニ見セ玉ヒ。扨談合終テ。長盛。正家
方ヨリ景勝上洛然ベキ旨急度申遣ハサレケル處
ニ。直江山城守返事ニ。先年大閤秀吉公景勝ヲ召成
後ヨリ會津ヘ所替仰付ラレ候時景勝固ク辞退シ
テ。越後ハ大祖上杉憲顕鎌倉ノ基氏尊氏公ノ御時
ニ越後ヲ賜リテ以來。二百餘年。數代不易ノ舊領ナ
リ。願クハ會津ヘ參候事ハ御免下サレ候ヘト申上
シ時。秀吉公上意ニハ。其方ノ所存聞召届ラレ候。去
ナガラ奥州ハ大國ニシテ。古ヘヨリ一揆ヲコルコト

數十度ナリ。其方ノ武器ヲ以テナラテハ。治候事叶
ベカラズ候。此故ニ本領ノ外ニ。加恩ノ地ヲ添百五十
万石下サレ候。其上三年在國御免ナサレ候由。御前
ニテ相極リ候間。唯今時分上洛ノ事存モ寄ズ候。去
ナガラ召ニヨリテ上洛ノ儀ハ。各別ノ儀ニテ候ト
御請申上ラレザリシカバ。御所御不興少カラズ。上
杉退治アルベキ旨内々思召立シケリ。出羽奥州下
野常陸ノ邊騒動斜ナラズ。佐竹義宣モ景勝一味ノ
由沙汰アリシカバ。御所ヨリ召状ヲ遣サレケルニ。
義宣病ト称シテ。上洛セズ。去ナガラ景勝一味ハ仕

ラザル旨返報ヲ指上セケリ

○藤田能登守栗田刑部會津立除事

今年三月十三日ハ。謙信二十三年ノ遠忌ニ當リケレバ。會津ニ於テ法華經一万部ノ法事アリシカバ。二十一个城ノ家老共皆會津ヘ來リ集ル。中ニモ其糟備後守清長ハ苅田郡白石ノ城ニ在テ。其疆政宗領ト入組仙臺ヨリ僅ニ十里ヲ隔ツ。殊ニ伊達ノ家老石川大和守昭光カ居城スル金山ノ城ト相對セリ。四海靜謐ノ時ダニ。上杉。伊達中アシク。境目等互ニ油断ナシ。增テ此比世上ノ騒ニヨリ。兩方懈ル間モナシ。此度會津ニテ不識庵謙信二十三年忌ノ大法會アルニ付。其糟モ此法席ニ參詣セン事ヲ望シカ共。若其留守ヘ取懸ラレテハト。遠慮ヲメグラシ。使者ヲ以テ懇ニ石川昭光ニ申遣シ。三月六日ニ和談相調則人質ヲ取替シ。同七日ニ白石ノ城ヲ立。會津ヘ赴ケル其聟ノ登坂式部ト。家老豊野又兵衛ニ留守ヲ預ケ。其身ハ會津ヘ赴キケリ。本庄越前守繁長モ。嫡子出羽守ヲ福嶋ノ城ニ殘シ。繁長ハ會津ヘ赴キケリ。須田大炊助長義モ築川ノ城ハ政宗境目ナレバ。横田太學筑地修理ヲ留守ニ殘シ。會津ヘ參

リケリ。十三日ニハ謙信追善ノ法會事故ナク相濟ケル處ニ十五日ニ藤田能登守俄ニ會津ヲ立除妻子ヲ引連坂東道百八十里ヲ上方道ハ八里一日一夜ニ馳過野州奈須ヘ懸入。ソレヨリ江戸ヘ參リ程ナク上方ヘ上リケル。是ハ當正月大坂ニテ御所ノ懇意ヲウケ。御腰物金銀等拜領セシ事露顕シ内々誅セラルベキ樣子ナリケルニヨリ立除タリ。又同家中栗田刑部モ藤田一味ニテ會津ヲ立除ケルヲ直江山城守聞付岩井備中守木戸監物ヲ追手ニ蒐南山口ニテ追詰刑部並ニ妻子家人百二十七人討果シ則其首ヲ獄門ニゾ梟タリケル。其末子一人生殘リ後ニハ栗田刑部ト名乘宇佐美造酒助勝興ト同時ニ寛永ノ始ニ水戸中納言頼房卿ヘ召出サルヽトナリ。宇佐美勝興ハ上杉謙信家老宇佐美駿河守定行ガ孫ニテ。宇佐美民部少輔勝行カ次男ナリ

○藤田能登守上洛之事

三月廿三日ニ藤田能登守ハ這々江戸ヘ落著。景勝逆心ノ旨申上シカバ。新將軍委細ニ聞召屆ラレ。能登守ガ口上ノ一ツ書ヲ以テ。早飛脚ヲ大坂ヘ上セラレ。其節ヨリ能登守モ上リケレバ。御所ハ藤田ガ一ツ

書ヲ偏前中納言秀家並奉行中ヘモ見セラレ。此上ハ其直ニ馳向テ退治仕ルベシト宜ヒケル。秀家モ生駒雅楽頭親正。増田右衛門尉長盛長束大蔵大輔正家モ内意ハ。景勝義宣ト同意ナレドモ。佯リ驚テ申ケルハ。太閤御他界ノ後幾程モナク。京伏見総劇シ。遠國御下知ヲ背事。曲事ノ至リ。是併カラ若君御幼少ノ故ナリトゾ。ツブヤキケル。然レドモ御所ハ筑前中納言秀秋ヨリノ内通ニテ。秀家奉行共景勝義宣ニ味ニテ謀反ヲ起セケル由。詳カニ御存知ナリシトモ。サラヌ體ニモテナシ。宣ヒケルハ。奥州ハ我領分下野ト隣ナレバ。他ノ手ヘ渡道ナシ。其罷向ヒ。追討仕ルベシト存候。去ナガラ再往使者ヲ遣シ。也ク異見ヲ加ヘ。景勝逆心ヲヒルガヘシ。上洛仕リ候ハヾ目出度候。承引仕ラズ候時ハ。急度打果シ申ベシト宣ヒケレバ。秀家奉行等モ。スハヤ究竟ノ事コソ出來タレト。心ニハ悦ビツヽ。弥上杉。佐竹ヘ内通。油断ナカリケル。藤田能登守ハ御所ヨリ一方八千石下サレ。野州烏山ノ城主トナル。其後大坂夏ノ御陣ニ榊原遠江守康信ニ指添ラレケル處ニ。五月六日若江合戦ニ下知アレクシテ。藤田御勘當ヲ蒙リ流罪

仰付ラレ候。元來ハ古主景勝ヲ背候逆意ヲ御惡ナ
サレ。一旦ハ召出サルヽト云ヒ遂ニハ御勘當トカヤ
○伊奈圖書助河村長門守會津江被下事
御所ハ備前中納言秀家並奉行中ト御相談有之重
テ會津ヘ使者ヲ下サル。但し書狀ノ儀ハ豐光寺承
兌長老ヨリ指越シ然ヘキトテ則其儀ニソ及ケル。
其狀ニ云
態以文れ申さい。弥ゝ来春内府ゝ東下遂ゝ付。
内府ゝ不審し後不ゝ申ゝ方雜説稿使ゝ付。
付。伊奈図書ゝ河村長門ゝ在所下ゝ。此度ハ使ゝ
ゝ上ゝ下ゝ申ゝ。他国ゝ通ゝ。恐笑止ゝ存
如此ゝ神判ゝ不新地ゝ成。越後川ゝ道橋ゝ
ゝ長ゝ御番ゝ。其ゝ御ゝ中納ゝ云及ゝ。
反ゝ使ゝ成ゝ。中納ゝ云及ゝ。
一東海ゝ別ゝ。
閑ゝ。内府ゝ不義ゝ。
一東海ゝ律儀ゝ。
ゝ。内府ゝ。
ゝ。
一近ゝ。

分ね任せらるべく候ハヾ何篇御心中ニ可有之事

一 五逆之元ハ少出肥前利持遠慮之処内府公御帰路
あるべからざるに付て其御儀思召候て静謐仕候先当者
車之職之事尤も候御覚悟可有之候事

一 京都ニおゐて諸大名大形御方事内府公へ一味合候御
思召候て御所様柳式之上被仰越可被申候

一 子方も立入中納言殿御上洛之上可被付候

一 利家卒候之上其身ニ在之一通可打

一 上方よりネツハラ之事ハ合戦之武具等之儀候
及播殺佐々とのみ内府公一人中納言殿上洛

御請も相調候ハヾ又家康へ御使者被差遣候若後案
之御事候東国之事ハ御人数可被差遣於御後可
被申付候入洛之上可就其上之被仰被
仰出候事ハ御旗下御方之所御尤事

一 為御使者差遣候景勝御出陣
先止之事本意高配境目
御手廻所ニ遣
上より御無怠様ニ候

卯月朔日　　　豊光寺
　　　　　　　　　承兌
直江山城守殿
　　　御宿所

此書狀ヲ使僧ニ持セ遣シケリ。御所ヨリハ伊奈圖書助、河村長門守被指下。但河村ハ增田右衛門尉家人タリト云𪜈、長門ガ弟直江方ニ奉公シテ罷有候。其便ヨケレバナリ。指下サレケリ。兩使會津ヘ下着シ、直江ニ對面シ、御所並ニ秀家奉行中ノ存底ヲ申達シ、兌長老ノ書狀ヲ渡シケリ。直江申ケルハ、諸牢人ヲ召抱候事ハ、御加增領ニテ、會津ヘ移シ候ユヘニテ候。武具ヲ集候事ハ、武家ノ習珍シカラズ。新城ヲ取立候事ハ、大坂罷立候砌、奉行中ヘ申達候上ニテ候。上方ノ武士コソ、茶ノ湯、造庭、花、數奇、茶入、炭斗フクベ、茶筅ナドヲ專ニ致シ候ヘ。上杉家ハ昔ヨリ他家ニスグレ、武勇ヲ專一ニ仕候ユヘ、武具ノ支度ハ珍シカラズ候ナド、惡口ノヽシリノ御返事ニ及ビケリ。

又兌長老ヘハ、直江返報アリ。其狀ニ云ク

今朔日之尊書昨十二日ニ下着具ニ拜見多幸々々

一當國之儀於其元種々雜說ニ付而内府樣御不審之由尤無餘儀候併京伏見之間ニ於てさへ色々之事無將雜說無止時候況哉遠國之景勝若輩と云似合之雜說と存候不苦候儀ニ候條可被安御心候重而連々可被申候事

一京陽上洛延引に付何角と罷過て遣し不審に存ぜ
ず玉碧無程上洛致玄旨九月下旬旬月時分上
洛可申ハいろの所より仕置て罷下付て小能中尚
ハ雪国ゆえ十月ゆえ之用ゆえハ何ゆえも京都ハ尚
案内者ニ成ゆえ江戸ハ雑説ハ全上洛延引ゆえ不可有
之ハ何ゆえ京陽遣ハ奥ハ成ゆへと
今推量ゆえ事
一京陽ハ世間ハ紙をハ何ゆえ下ゆえ。去
玄旨ハ未数通ゆえ紙又ハ旅ゆえ。言ゆえ不及
ア入作ゆ

一大国様ハ未京陽様ハ仁ゆえ。今ハ別条ゆえ有
ハ。也上ゆえ転変書ハ旅ハ遣ゆえ事
一京陽ハ毛所ハ人ゆえ。後人ゆえ俗ハ
礼ハ遣ハと云ゆえ。或ハ兼又ハ別陳ハ
ゆえ。後人と引合を見ハ所ハ為ハ云ゆえ。
ハ所様ハ表裏と云ゆえ事
一小国様ハ為ハ作付ハ。所威光ハ為ゆえ
一博ハ大刑ハ御ハ作付ハ。自然用ハ紙て
ア幾ハ。様式ハ京陽表向ゆえ。紙ハ京陽
遣ハ歴ゆえ。一性ハ彼及ハ見ゆえ。作ハ為

国。又は所様の為にもて誘ひ出されて不
知者共。後人婦女物参者と仕。猶くも其一つの
ものは安くい。若居れば人数は分の次第に寄て
形入いる
一雑説曰一三郎延引なるは。仕者へ如ア寄ての
一曰二武を集て。武士い今焼屋打ふべ不。
人ゝ〻〻乱を以て求れい。国会武士い雑談鉄砲。弓矢を
具し度アい。主国ゝ〻風儀と言ふ不義有ら爰い。
幾度主ゝ言ふ不ル合ア用立ア者ゝ〻。事為不
為ゝ身何程ゝ事ア有ゝ。天下不ル合ふ法

と今ゝ
一曰三道化り。和橋結ア付。性質ゝ化ゝ見ゝ如ク仕儀。
国を抱ゝ役ゝ〻ゝ系如い。移ゝ安ゝ。系橋ア化
い。結ゝ場ゝ結ゝ不ル者ゝ〻い。測ゝ場堅物ゝ系い。
道国へ系橋。仕ア垂ア付ルゝ。中国ゝ云ゝ人ゝ命と
端化ゝ〻い。何ゝ〻ゝ方ア入ル。ア化ゝも不切ル
い。系務化ゝ〻い越ゝ化ゝ系ア。上ア。下ア。岩城相
馬。政宗。氏上。田村。化小へ和漢ゝ〻ゝ。ア化ゝ。
国ゝ〻ゝい。自他ゝ家ゝ〻何ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ。堅堅物中道
化ゝ化ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ。ア化ゝ系い。能ゝ弓矢ゝ系ア

分ける者とてなき言い。京勝利天下逆んずるべく弦堂
日堀切塞防戦く反逆ず。てを仕へ。十方へ道を
作り。逆んずるに。自然人数死亡ら。一方く後まさに。
所成ず敗い。劫や十方を防戦く事あるべきか。
縱他国へ居おくとも。一方へて発京勝和尚の出陣
てを敗いよ。中くを不及乱れ。十方をよいんとし
てを成ずるうつけ者と存い。京勝仕ら左橋ア付
弁慶江戸言く所使者白川に行く城て為仕ず改い。高
仕の事ら仕使ら仕ず。不く境目く能仕見をるく。
合忠て為く事

一是所号閑ア付ると。又仕後虚言よ成くれ不へ。自
他ら作出ア敗い。ら乗隆系事ら。未く多人数
集くと所定い。扱て為虚云い就一笑く
一京勝尚三月い謙信の遣言よ和尚ひく京ア入れ。陳
と所。其中上い。為仕見色ら成て社関者へ人数
武ら仕ず。国く発仕亜の為ひく方ア出ず和
綱くれよと。用ら彼ア付ると。諸方ア大刑ア仕ず彼
ア就く今い。京勝逆ら仕使ら。ひく方。商
ア人ん方ら方ら所。所様仕関者く使。仕所様仕関者く使ら連
ら事関く。後人ア分有れよら作改ら安仕紀所

そもそも世に勢ひ強くして強くなれば、行末を慮り、
下を撫で、家の内に入るべき。乳母子の内あひし
らひ及ばざれば、明日と企てんにも者しも、さてもまた
てきりもせんべい。さてもぬ新参にて、家作り或い縁者
或い新知りとて、恥をもかへりみず、人の交をも
ひ。尚老風よい。京勝方に不相変よひんの世の俗
に人民選ん天下に位をつ。ひとつに家の末代体俗の
名ぞ。されば光失に成。家、後人引合を。云は紀的にて。
為に為に為変ひ。たくく為京程乱脈乱の一つ言底
ひ。地中京勝家中為田能登ちく。考。五月末尚

残引切に戸、能勝。それにつて家作中作家。方
手知て下ひ。京勝に遠い知。此所様は表程が世にて
此法次第に事

一千万自定不入。京勝の毛沢をひ。家作に俗へふ
所なくなれば支度に家。家乱脈ひ。けにも此所様
ひ分別次第上にて社ひ。紙代作を。よ長。太閤
様に亜用お肩数逸の新張又反古より。御幼が
の秀吉様と見数数。此所様へお首尾より仕代
方にて家お社に。天下に家。家くしも。無
人の名ひ不通に家。末代に為恥辱ひ。代家注意

何のもと一の仕ぶり。これ人易し。但終に人ごとの仕。実儀よ
殺生石に改ること。おのづから。ふる尼。老婆の系。契約
も入り易くなり
一於ニ京師一元禄選ばれとなりぬ。接儀。金沢御
とて鯛。色。或へ城ゐる人数と入。呂粮と支度。或へ
悦目人質とし丸り女の白髪仕接乃雑説たる人たち
別者の仕ぶ。ゐる不設のいう
一内ゐ此所様へ使者をゐる。なたぶ人色ゐ。儀
色分絶人打諸絶ゐ成。家中分荒田引切ゐ案。
遣ん歴史とゐ。ゐ音伝ゐ。

義程者貴一とれ此法ゐ有ゐ案。先像ゐ。乱明
作問。ゐゐ。ゐ。金石論ゐ。ゐ。ゐ。
成都ニ知ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。
一何ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。
ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。
迂作のゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。
作と。天下。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。
実作と。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。
ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。
也。使者奏達。恐惶敬白

卯月十七日　　出羽守
　　巻光寺　　兼續左判

右ノ返事並ニ伊奈圖書助河村長門守歸落シ。大坂ニ
着シカバ。直江返答並ニ兄長老ヘノ返狀ヲ。御所御覽
有之。直江ガ申条。公儀ヲアナドリ。某ヲ嘲哢イタシ
タル仕方ノ事常篇ニ堪タリト。大ニ怒給ヒ。弥上杉征
伐ノ御工夫アリ。同月二十八日。佐竹義宣ヘモ。嶋田
治兵衛ヲ御使者トシテ。當春以使者申入候處ニ。病
氣ト申シ候条。其意ニ任セ候。去ナカラ世上ノ風聞
ハ。上杉一味ト沙汰有之候。無左候ハヾ。上洛早々致
サルベシト仰遣サルヽ處ニ。義宣返事ニ我マヽタク。
景勝ニ一味仕ラズ候。去ナガラ誰人ニ寄ズ秀頼公
ヲ蔑如ニイタシ。我意ヲ振舞トモガラヘ。一矢射カ
ケ忠節ヲ致スベクト存候ト申サレケル。是ハ太閤
秀吉公御他界以後。御所一人シテ。天下ノ置目ヲナ
サレ候ヲ心ニ持ケルユヘニ。今様ニ返答セラレケル
トゾ聞ヘケル。今様ニ御所ヘハ返答シテ。其後車丹
波守猛虎ト申スゾボヘノ侍。大將ニ五百餘ノ勢ヲ相
ソヘ。加勢トシテ。會津ヘ指越シケリ。此丹波守ハ常
州車ノ城主ナリ。隱ナキ勇者ニテ白四半ニ火車ヲ

書テ指物ニシタリケル。是ハ行所ニテ人ヲ取ト云
事ナルベシ

東國太平記卷之二終

内閣

国立公文書館
National Archives of Japan